

ツインギャラリー蔵

リニューアル OPEN 展示

脈打つ指先

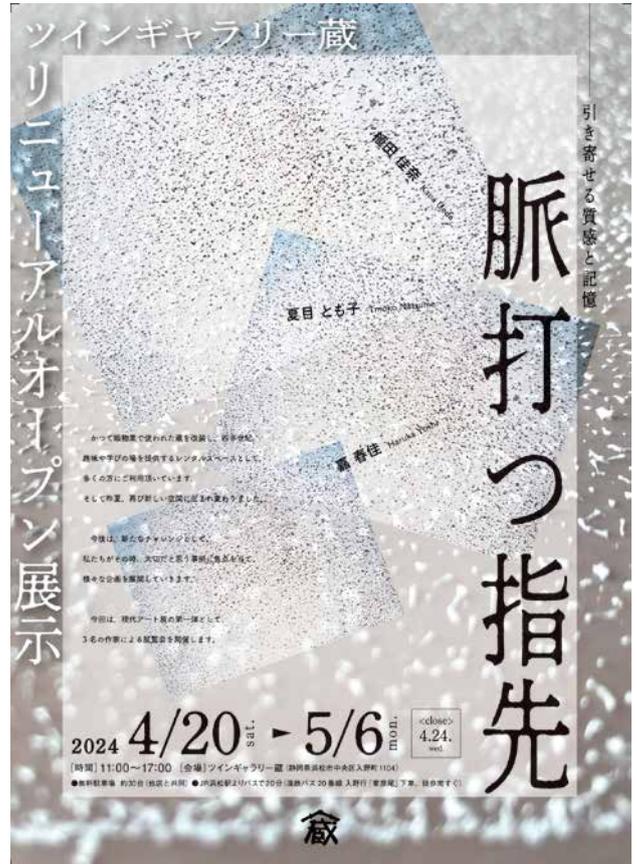
植田 佳奈 夏目 とも子 嘉 春佳

2024.4.20 (sat) – 5.6 (mon)

ツインギャラリー蔵

静岡県浜松市中央区入野町 1104

入場料 無料



Design by 是空デザイン

引き寄せる記憶と質感

かつて織物業を営んでいた頃の蔵を1997年にギャラリーに改装し、四半世紀が経ちます。この間レンタルスペースとして多くの方に利用され、昨夏新たに改装いたしました。

今後も、様々な“もの・こと”をクリエイトする人たちに開かれたレンタルスペースとしての役割はそのままに、ギャラリーがその時々大切だと思う事柄に焦点を当て、様々な企画を展開していきます。

今回は、現代アート展の第一弾として、3名の作家による展覧会を開催いたします。



植田佳奈〈陶片練り込み石ころ〉2023 (参考)



夏目とも子〈遠州横須賀 後藤邸〉2023 (参考)



嘉春佳〈折りのかたち〉2023 (参考)

やわやわとしたものが息づく場 ふれる目、みる手を解きほぐす

本展はリニューアル後初の企画展として、質感と記憶をテーマに、陶作家の植田佳奈、美術家の夏目とも子、嘉春佳、そしてあなたと〈つくる〉展覧会です。

上滑りする知識や言葉の前に何があるのか。自分の感覚器官を開いて^{ゆだ}委ねて身がさねする。
脈打つという身体的感受性は、青白く光る液晶で踊る指先に何を示唆するか。

未規定でやわやわとしたもの
粒々の蚊柱みたいな存在
小さいけれど、弱いけれど、そうじゃないもの
いつまでもそこに佇んでいられること
ふれることで知ること
ふれられないから知れること
瞼の奥で感じる色
こぼれたもの、落としたもの
もう無いこと

現代美術にまつわる様々な踏まえるべき文脈を問う前に、私たちは何の前に立っているのか。難しい言葉は一旦置いて、私やあなたの目の前にある“作品”について、言葉を交わしたい。

出品作家と作品



植田佳奈〈象嵌一輪挿し〉2022（参考）

植田佳奈
Kana Ueda



1992年神奈川県生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科陶磁専攻卒業。

小さな電気窯で用途のない焼き物を制作している。作為の中に無作為を含ませた制作方法を用いて、人工と自然の間を探る。失敗とも思えるような偶然入ったヒビや割れなどを技法として取り入れたり、数日間かけて土の表面に点を打ち続けることによって自然物のような肌理を作り出している。土や釉薬での実験を繰り返して、陶芸での新たな質感表現も試みている。



夏目とも子〈遠州横須賀 後藤邸〉2023（参考）

夏目とも子
Tomoko Natsume



1971年兵庫県生まれ。静岡県浜松市在住。筑波大学大学院芸術研究科修了（総合造形コース）。その場所にかつてあった役割や人の暮らし、日差しや風雨、積み重ねた時間の記憶へ想像を馳せ、色材を幾層にも重ねる行為を通して、目の前に迫る「今」を考える作品を制作。既存建築物の壁を使った現地制作や、主にインスタレーションの手法を使い表現活動を続ける。



嘉春佳〈Drifted Things from the Little Stories〉2022（参考）

嘉春佳
Haruka Yoshi



1996年茨城県生まれ。筑波大学芸術専門学群総合造形領域卒業。東京藝術大学先端芸術表現科修了。記録に残らず消えていく自分や他者の日常的な時間や記憶を形にすることを考え、主に古着を用いて制作している。縫う・編むといった手仕事がかつては衣服の修繕や道具を捨てるための術であり、暮らしを継続させること・ものを残していくことと深く結びついてきたという点に着目し、古着を収集し、手仕事によって再構成する方法での制作を行う。

展覧会の見どころ

●築80年の蔵と^{いま}現在を生きる作家のコラボレーション

昨年夏に行った改装では、これまで壁紙やフロアシートで隠されていた建築当時の土壁や土間を活かし、80年という記憶を呼び覚ますような工夫を施しました。また、本展出品作家は、それぞれ手触りのある質感や記憶をテーマに作品を制作しています。かつての記憶が滲む蔵と、出品作家3名それぞれの記憶と質感が織りなす柔らかな感性でつくられた作品をお楽しみいただけます。



ツインギャラリー蔵 2F 室内



嘉春佳〈時層を綴る〉2023 (参考)

●作家一人一人の新たな側面を魅せる

陶作家の植田佳奈は、これまでセレクトショップや器などを専門に取り扱うギャラリーで作品を発表してきました。本展では、代表作の一輪挿しをはじめとした焼き物とともに、アート作品として創作の源泉ともいえる日常で目に留まったものを収集、インスタレーション展示をします。

美術家の夏目とも子は、これまで古民家や工場跡などホワイトキューブではない展示空間で多く発表してきました。本展では、新装したギャラリー1Fのホワイトキューブ、建築当時の壁、改装前27年前の壁など、時間軸の異なる壁面と向き合い、作家独自の視点で積層した時間を解きほぐします。

同じく美術家の嘉春佳は、これまで中之条ビエンナーレ(2023)や奥能登国際芸術祭(2023)に参加し、古着を用いて、そこに暮らす人々の暮らしに焦点を当てた作品を発表してきました。本展では、作家本人の祖母の遺した絵葉書から着想し、祖母との思い出、記憶と向き合う作品を展示します。

●訪れた人々の線が繋がり、ギャラリーを包みこむ

浜松在住の夏目とも子とギャラリーの共同作品として、来場者参加型作品を展示します。2月下旬から作家が現地で公開制作をしながら下地をつくり、会期中に訪れた人々は、壁に彫刻刀で線を削ってもらいます。誰かの終点が誰かの起点となり、刻まれた線は繋がり、やがて埋め戻されます。来場者によって刻まれた線は、目には見えない形でギャラリーを内側から包み、この場所を訪れる人々をそっと見守り続ける壁として在り続けます。ぜひ多くの方に参加して頂きたいと思っています。



夏目とも子〈鴨江の壁 2017 ロビー 行き交う場所〉2017 (参考)

会期中開催イベント

会期中には、来場者参加型作品、鑑賞会を開催するなど、さまざまなイベントを用意しています。

◎ イベント参加の事前申込は不要です。

探す、刻む、包みこむ

ギャラリーの壁をつくろう
ツインギャラリー蔵 × 夏目とも子

4/20 (土)~

11:00~17:00

来場一人一人に線を刻んでもらう参加型作品



Night Gallery

4/20 (土)~

5/4 (土)~

19:00~22:00

地方都市郊外のギャラリーで手元の明かりをたよりに、ひっそりと作品を鑑賞します



No coffee No life, my treat

4/20 (土)~

14:00~17:00

フリーコーヒーのおじさんが来場者にコーヒーを振る舞います



さしすせそ文庫

〈廊の図書室 / I(r)ow library〉
OPEN

4/20 (土)~

11:00~17:00

参加作家による選書紹介



感性の言葉でアートを感じる オノマトペアート鑑賞会

4/27 (土)

① 13:00~ 植田佳奈

② 14:30~ 夏目とも子

③ 16:00~ 嘉春佳



アートから受けた感覚をオノマトペにして味わいます。そして、その作品の中で何が起きているのか対話しながら掘り下げていきます。美術の前提知識は必要ありません。アートとの対話を楽しみましょう！

5/4 (土)

① 19:00~ 植田佳奈

② 20:00~ 夏目とも子

③ 21:00~ 嘉春佳

基本情報

展覧会 ツインギャラリー蔵 リニューアル OPEN 展示

脈打つ指先

植田 佳奈 夏目 とも子 嘉 春佳

会期 2024年4月20日〔土〕 - 5月6日〔月〕

時間 11:00 - 17:00

休廊日 4月24日〔水〕

会場 ツインギャラリー蔵 〒432-8061 静岡県浜松市中央区入野町 1104

主催 丸上産業株式会社

入場料 無料



photography | Yoichi Nakamura

お問い合わせ

ツインギャラリー蔵 担当：空閑（クガ）

〒432-8061 静岡県浜松市中央区入野町 1104

Tel : 053-447-1038 (丸上産業株式会社事務所 直通)

Mail : twinkura.1997@gmail.com



弊社 HP・SNS